



九州大学  
KYUSHU UNIVERSITY

2020 10.7 水 13:00-17:00

## オンライン シンポジウム

講演者

基調講演「国境の島々のダイナミズム」

高木 彰彦 氏 九州大学 名誉教授  
人文科学研究院特任研究員

「境界地域としての中世対馬」

松尾 大輝 氏 九州大学 人文科学府 歴史空間論専攻  
博士後期課程

「仏教文物からみた対馬の境界」

大澤 信 氏 九州国立博物館 研究員

討論者

木村 政伸 九州大学 基幹教育院 / 人間環境学府 教授

嶋田 暁文 九州大学 法学研究院 教授

北澤 満 九州大学 経済学研究院 准教授

司会

井手 誠之輔 九州大学 人文科学研究院 教授 国分 航士 九州大学 人文科学研究院 講師

[シンポジウムの形態]

オンライン会議形式 (ZOOMにて開催)

[参加申込み]

下記サイトへアクセスの上、事前登録をお願いします。折り返し、アドレスとパスワードをご連絡いたします。 <http://commons.kyushu-u.ac.jp/collaborative/news.html>



日本は古来より九州・沖縄の島々を通じてアジアとの交流を進めてきました。戦後の国境線の画定によりこうした交流は停滞したものの、21世紀に入るとアジア諸国の経済成長に伴い、隣国から直接これらの島々を訪れる人が急増しました。また、国連海洋法条約の成立や中国の海洋進出に伴い、海洋政策の「拠点」としての国境の島々に対する関心も高まっています。他方で、2019年の「ボイコット・ジャパン」運動により対馬を訪れる韓国人が激減したり、今年に入って新型コロナウイルスの流行によりインバウンド客が激減するなど、国際情勢の変化は国境の島々に様々な影響を及ぼしています。

このような国境の島々が有するダイナミズムをどのように捉えるのか。本シンポジウムでは、国境の島々が抱える問題点や将来的な可能性について、人文社会系の多角的な視点から考えていきます。それぞれの島の有する歴史的・文化的な背景も踏まえつつ、現在そして未来社会の「島」の在り方を議論します。

なお、本シンポジウムは Progress100 の助成を受け、2021年3月に開催予定の国際シンポジウム「プラットフォーム」としての島—持続可能な社会を目指すための学際的検討」の事前企画として行います。

人文科学研究院 / 人間環境学研究院 / 法学研究院 / 経済学研究院  
九州大学人系協働研究・教育 commons 第六回企画

# 国境の島々のダイナミズム